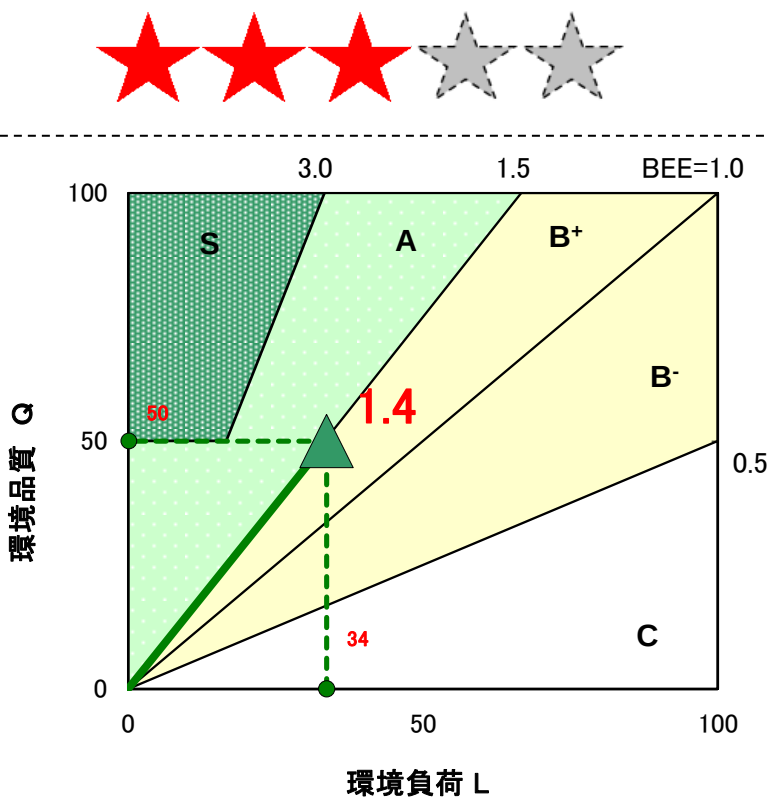


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	(仮称) レクシア長嶺南七丁目新築	階数	地上8F	
建設地	熊本県熊本市東区長嶺南7丁目180	構造	RC造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	247 人	
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2018年7月 0.0	評価の実施日	2016年9月9日	
敷地面積	3,083 m ²	作成者	中村 英雄	
建築面積	1,006 m ²	確認日	2016年9月9日	
延床面積	5,315 m ²	確認者	中村 英雄	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.4

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

78%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

84

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

評価点

97.5

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

75.0

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

75.0

【重点事項4】 循環型社会の実現

75.0

■熊本県重点評価基準

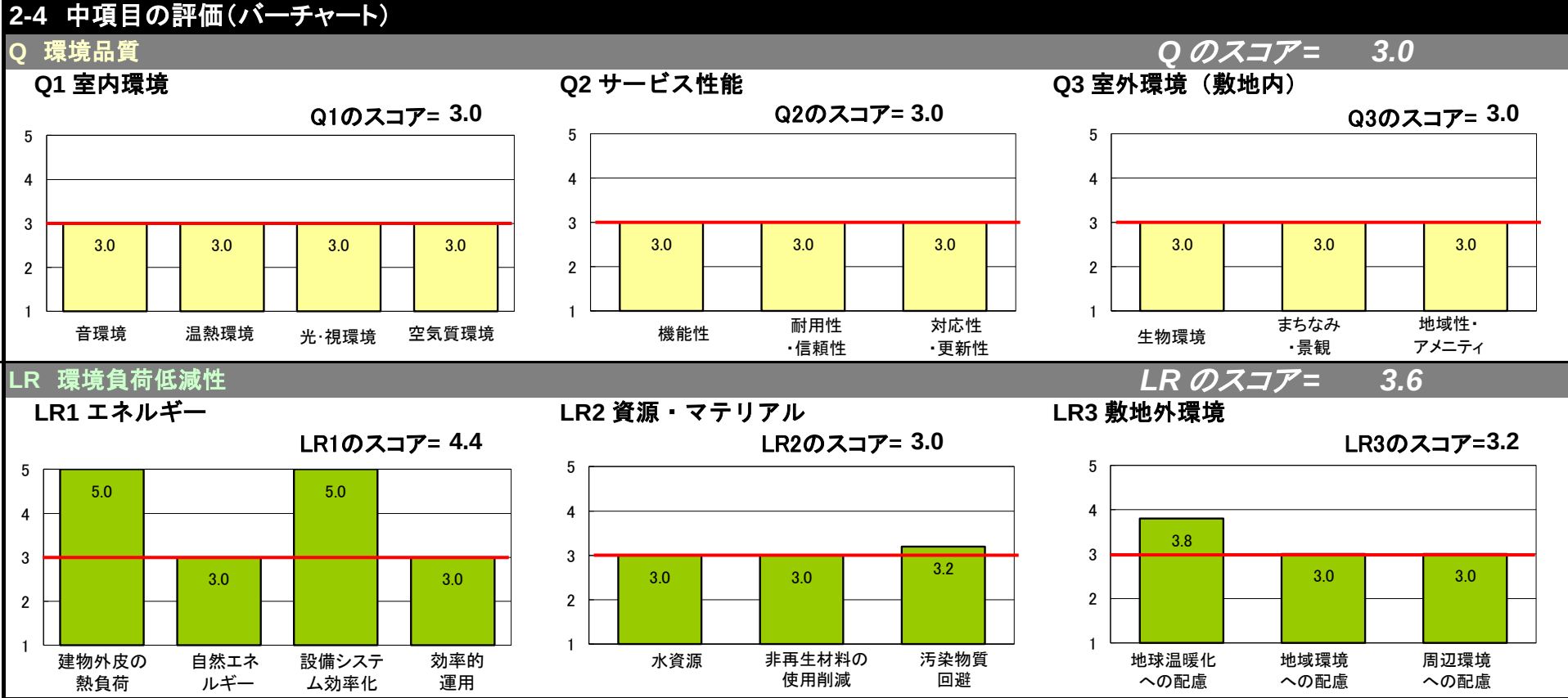
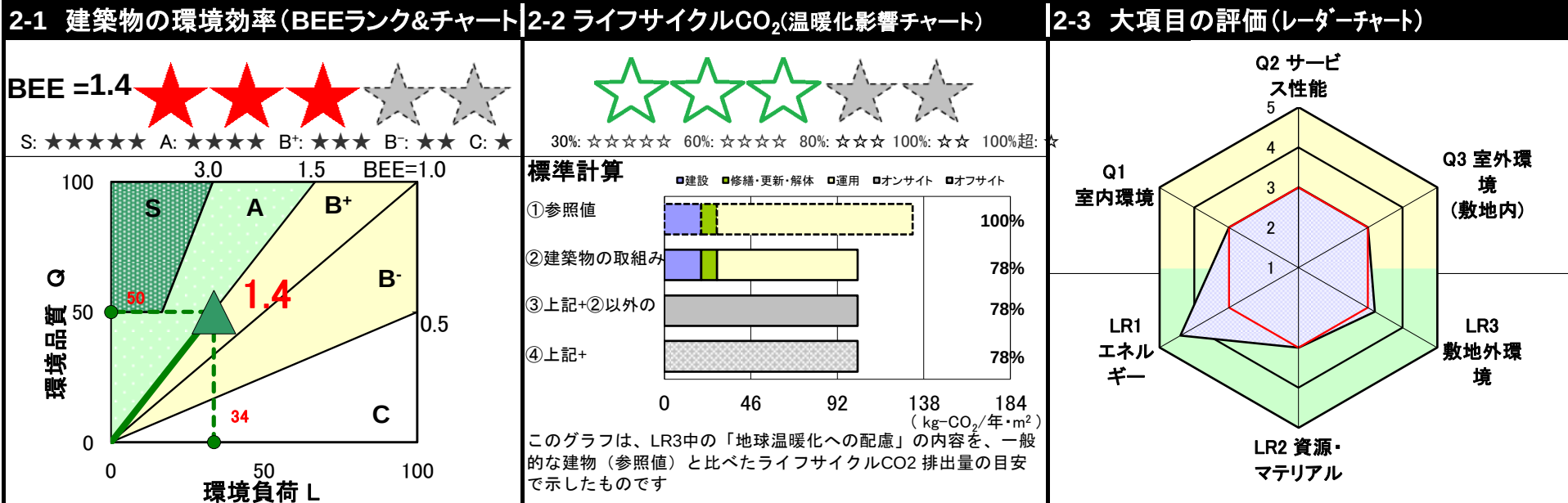
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称) レクシア長嶺南七丁目新築	階数	地上8F		
建設地	熊本県熊本市東区長嶺南7丁目180	構造	RC造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	247 人		
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2018年7月 0.0	評価の実施日	2016年9月9日		
敷地面積	3,083 m ²	作成者	中村 英雄		
建築面積	1,006 m ²	確認日	2016年9月9日		
延床面積	5,315 m ²	確認者	中村 英雄		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版 (仮称) レクシア長嶺南七丁目新築工事			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)						
スコアシート		実施設計段階									
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
				評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質								3.0			
Q1 室内環境					0.40		-	3.0			
1 音環境				3.0	0.15	3.0	1.00	3.0			
1.1 騒音				3.0	0.50	3.0	0.50				
1.2 遮音				3.0	0.50	3.0	0.50				
1				開口部遮音性能	3.0	1.00	3.0		0.30		
2				界壁遮音性能	3.0	-	3.0		0.30		
3				界床遮音性能(軽量衝撃源)	3.0	-	3.0		0.20		
4				界床遮音性能(重量衝撃源)	3.0	-	3.0		0.20		
1.3 吸音				3.0	-	3.0	-				
2 温熱環境				3.0	0.35	3.0	1.00	3.0			
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50				
1				室温	3.0	0.63	3.0		0.63		
2				外皮性能	3.0	0.38	3.0		0.38		
3				ゾーン別制御性	3.0	-	-		-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20				
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30				
3 光・視環境						3.0	0.25		3.0	1.00	3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.30	3.0	0.30				
1				昼光率	3.0	0.60	3.0		0.50		
2				方位別開口	-	-	3.0		0.30		
3				昼光利用設備	3.0	0.40	3.0		0.20		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	3.0	0.30				
1				昼光制御	3.0	1.00	3.0		1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15				
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25				
4 空気質環境						3.0	0.25		3.0	1.00	3.0
4.1 発生源対策				専用部は、建築材料をほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用している。		3.0	0.60		3.0	0.63	
1		化学汚染物質	3.0			1.00	3.0	1.00			
2		アスベスト対策	-			-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.40			3.0	0.38				
1		換気量	3.0			0.50	3.0	0.33			
2		自然換気性能	3.0			-	3.0	0.33			
3		取り入れ外気への配慮	3.0			0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理		-	-			-	-				
1		CO ₂ の監視	3.0			-	-	-			
2		喫煙の制御	3.0			-	-	-			
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.0	
1 機能性						3.0	0.40	3.0	1.00	3.0	
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	3.0	0.60		
1				広さ・収納性	3.0	-	3.0	-			
2				高度情報通信設備対応	3.0	-	3.0	1.00			
3				バリアフリー計画	3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40				
1				広さ感・景観	3.0	-	3.0	0.50			
2				リフレッシュスペース	3.0	-	-	-			
3				内装計画	3.0	1.00	3.0	0.50			
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-				
1				維持管理に配慮した設計	3.0	0.50	-	-			
2				維持管理用機能の確保	3.0	0.50	-	-			
3				衛生管理業務	-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30	-	-		3.0
2.1 耐震・免震		ボーダータイル、二丁掛タイル、45丁掛けタイル、複層塗材E		3.0	0.50	-	-				
1				耐震性	3.0	0.80	-		-		
2				免震・制振性能	3.0	0.20	-		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-				
1				躯体材料の耐用年数	3.0	0.20	-		-		
2				外壁仕上げ材の補修必要間隔	3.0	0.20	-		-		
3				主要内装仕上げ材の更新必要間隔	3.0	0.10	-		-		
4				空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	0.10	-		-		
5				空調・給排水配管の更新必要間隔	3.0	0.20	-		-		
6				主要設備機器の更新必要間隔	3.0	0.20	-		-		

専用部は、建築材料をほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用している。

ボーダータイル、二丁掛タイル、45丁掛けタイル、複層塗材E

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-		
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-		
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-		
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-		
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-		
	3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.0		1.00
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり		3.0	-	3.0	0.60		
	2	空間の形状・自由さ		3.0	-	3.0	0.40		
	3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50		
	3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-		
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-		
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-		
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-		
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-		3.0
	1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-		3.0
	2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-		3.0
	3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-		3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-			
3.2	敷地内温熱環境の向上	敷地内の緑化	3.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6		
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4		
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.20	-	-	5.0		
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0		
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 0.83	5.0	0.50	-	-	5.0	
集合住宅以外の評価(3a.3b)			3.0	-	-	-			
集合住宅の評価(3c)			5.0	1.00	-	-			
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0		
集合住宅以外の評価			-	-	-	-			
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-			
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-			
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-			
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-			
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0		
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0		
1.1 節水			3.0	0.40	-	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-			
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-			
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0		
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			高炉セメント	3.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			床下地:パーティクルボード	3.0	0.10	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み				3.0	0.20	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.20	-	-	3.2		
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-			
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-			
1 消火剤			4.0	0.33	-	-			
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.33	-	-			
3 冷媒			3.0	0.33	-	-			
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2		
1 地球温暖化への配慮			積極的な省エネルギー対策	3.8	0.33	-	-	3.8	
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善			敷地内の緑化	3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-		
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-		
2 污水处理負荷抑制				3.0	0.25	-	-		
3 交通負荷抑制			自転車置場、駐車場を確保し動作が交差しないように配慮。	3.0	0.25	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-		
1 騒音				3.0	0.33	-	-		
2 振動				3.0	0.33	-	-		
3 悪臭				3.0	0.33	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-		
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-		
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-		
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-		
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-		

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

Q1 室内環境

専用部は、建築材料をほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用している。

Q2 サービス性能

ボーダータイル、二丁掛タイル、4 5丁掛けタイル、複層塗材E
壁：ビニルクロス、廊下・床：フローリング

Q3 室外環境（敷地内）

敷地内の緑化
住戸数分の駐車場を確保した。

LR1 エネルギー

給湯器（潜熱回収型）を採用することにより省エネルギーを実現。
照明器具は省エネ効果が高いLED照明を採用した。

LR2 資源・マテリアル

節水型便器を採用している。
高炉セメント
接着剤など有害物質を含まない材料を使用している。
不活性ガス消火剤を使用してる。

LR3 敷地外環境

積極的な省エネルギー対策
敷地内の緑化
自転車置場、駐車場を確保し動作が交差しないように配慮。
建設・運用でCO2排出量を抑えている。

その他

注）上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称) レクシア長嶺南七丁目新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		84
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				97.5	0.40	39.00
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				75	0.20	15.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				75	0.20	15.00
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数